

25 寿老人鶴亀図 橋本雅邦

三幅対

明治三十三年（一九〇〇）

絹本着色

本紙各一二四・五×五〇・八

明治三十三年（一九〇〇）の皇太子（大正天皇）御結婚を祝って、宮内省雇等他一同より献上された作品。三幅対の中央に描かれるのは、愛らしい鹿が寄り添う寿老人である。寿老人は、人の寿命をつかさどるとされる南極星（カノーパス）の化身であり、長寿をもたらす吉祥の神として日本でも古くから好んで描かれた。橋本雅邦（一八三五～一九〇八）の描く寿老人も、人間の寿命が記されているという巻物を下げた杖を持つ。また古来より、鹿は千年で蒼鹿、千五百年で白鹿、二千年で黒い毛並みの玄鹿になるといわれており、本図のように寿老人の従者として玄鹿がともに描かれる例が多い。右幅には鶴、左幅には亀と靈芝、いずれも長寿を意味するモチーフで構成され、また三幅の背景にはそれぞれ若い松の木、可憐な花を咲かせた白梅、そして岩陰から伸びる笹、という具合に松竹梅の吉祥性も取り入れられている。寿老人と鶴亀は慶事の飾りとして好まれた取り合わせであり、祝儀の床飾りには必ず登場する。





- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan